

晩年を支えたくりでん車両 KD95形



←現在、ミュージアム内に
静態保存されているKD952形

↓現役時代、2両編成で走行するKD95形

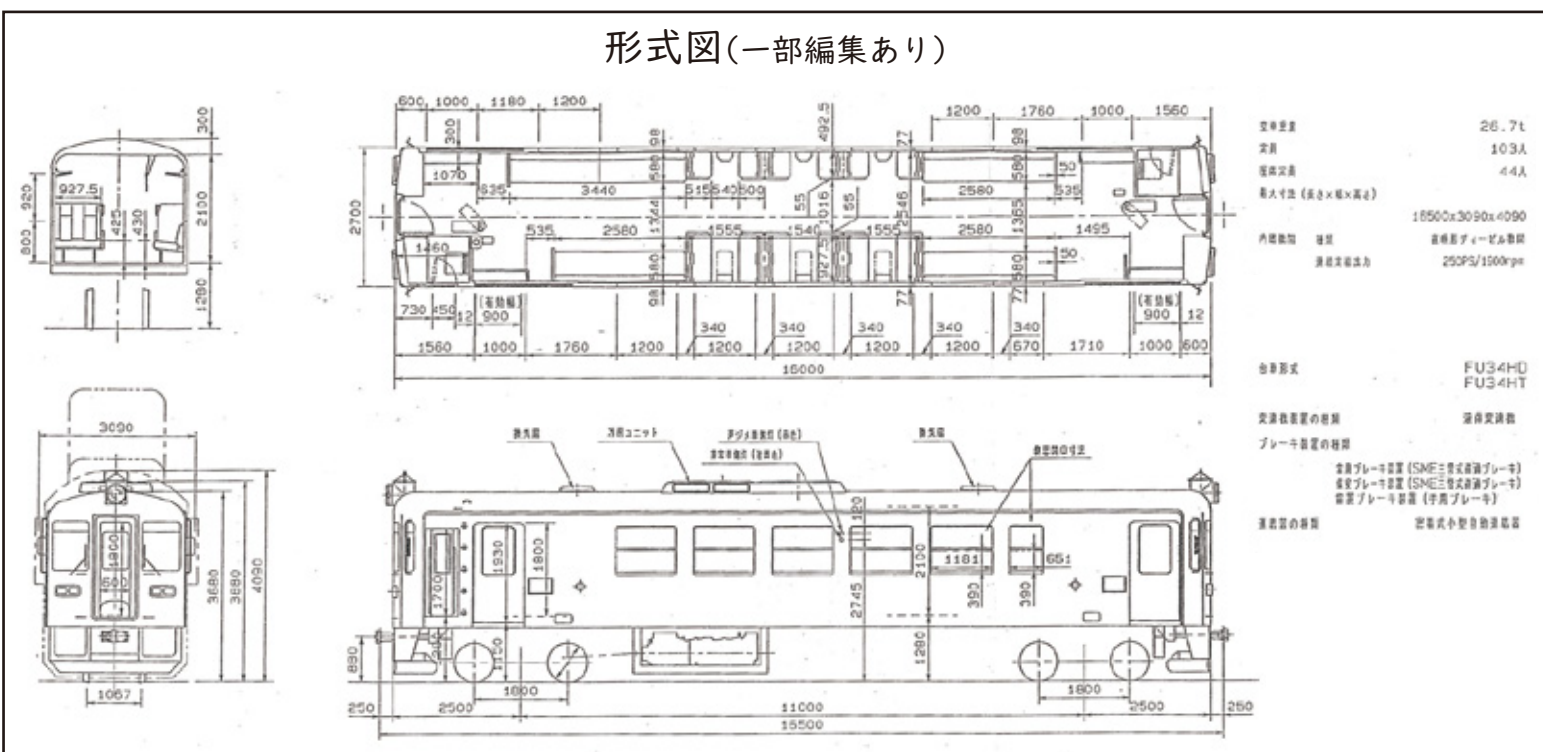


来歴

このくりでんオリジナル車両は、わたらせ渓谷鐵道の車両を参考に設計され、内装、外装ともくりでん沿線地域の特徴が見られる「レトロ調車両」として造られました。この車両の導入には、1995年に電車から気動車へと移行し、社名も「栗原電鉄」から「くりはら田園鐵道」へと変更されたという背景がありました。全部で3両あり、それぞれ“KD951” “KD952” “KD953”という形式番号が付いています。

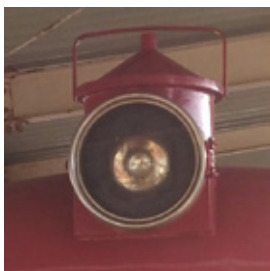
これらの車両は、くりはら田園鐵道が1995年に成立してから2007年に廃線になるまでの12年間、主力車両として活躍続けました。現在は、KD952が資料館側にある客車庫で静態保存されています。一方でKD951とKD953は旧若柳駅にて動態保存されており、現在も「くりでん乗車会」や「KD95形運転体験」などで活躍し続けています。

形式図(一部編集あり)



外装

カンテラ風 前照灯



細倉鉱山で使われていたカンテラをイメージして作成

塗装



車両全体がレトロ調に見えるようなえんじ色

エンブレム

KD951



伊豆沼の白鳥

KD952



栗原市を象徴する花々

桜と野菊とニッコウキスゲ

KD953



馬と栗駒山

内装



県産の木材

車内のいたる所に県産の木材が使われています。例えば車両の床、テーブル、座席の背板やひじ掛けなどです。



鶯沢木工組合製作の手作りランプ

このランプは、車両前後の乗降口付近に設置されています。細倉側にあるランプの下部は深緑色を、対して石越側はオレンジ色をしています。



栗原市民制作の陶板

車両の窓と窓の間に1つずつ、全部で6つの陶板があります。車両ごとに異なる陶板の絵が飾られており、どれも栗原市の生活風景を連想させます。



KD951の陶板

KD952の陶板

(通勤・通学時を考慮したセミクロスシートの座席で、くりでん車両としては初の冷暖房設備完備車両)

次回予告

色々な用途の測定器

【くりでんミュージアムへの問い合わせ】

TEL:0228-24-7961

FAX:0228-24-7962

メールアドレス:info@kuridenpark.com